

高野山社会福祉だより

第35号

ふれあい



目次

● 福祉活動団体および福祉事業への支援……………2	● ウィッシュバケーション…………… 9
お寺 de 人形劇 in 池田 2025~ お寺でいっぱい遊んじゃおう♪	● ところの便り事業……………10
関西広域高野山レピーター局維持運営	● ごあいさつ……………11
● 令和7年度 ふれあい人権フェスタ……………6	● 御宝号念誦運動のお願い……………12
● 平和祈念展 in 和歌山……………7	● 御宝号念誦運動寄金推移表……………12
● 令和7年度 高野山心の学び講座…………… 8	● 福祉基金事業表……………12

福祉活動および福祉事業への支援

お寺de人形劇in池田2025 お寺でいっぱい遊んどじゃおう♪

お寺de人形劇in池田実行委員長

大廣寺 住職 金子 丈雄



お寺での人形劇を楽しむ子どもたち

大阪府池田市の五月山のふもとに連なる寺院群では、宗派をこえて三百年以上つづく「巡回講」という交流があります。地域の暮らしとともに受け継がれてきたその営みの延長として、私

たちは十年以上にわたり、こどもたちの育ちを願う文化事業に取り組んできました。本年度は、「お寺de人形劇in池田二〇二五〜お寺でいっぱい遊んどじゃおう♪」と題し、年間を通して複数の寺院を巡る形で開催しました。

今年の人形劇を振り返ると、特に”お寺という場がもつ力を”実感する一年でした。春には、花まつりの法要とお話につき、にぎやかな音色が境内を彩りました。糸あやつりの舞台では、人形が息をするように動いた時、こどもたちの身体が自然と前へ傾き、その世界に引き込まれていきました。目の前で命が宿るようなライブの体験は、映像では得られないものです。

初夏の公演では、紙芝居、幻燈、人形劇がつぎつぎと現れ、空間全体が

ひとつの大きな物語の器となりました。巧みな話術に笑いが起こり、光と影が描く世界に息をのむ場面もありました。こどもたちの反応は素直で、拍手や声のひとつひとつが舞台の一部になっていきます。客席からこぼれる「面白かった」というひとは、作品が心の深いところに届いたあかしでした。



かえるの歌と人形劇の様子

山手の寺院での公演では、坂道をのぼって来場する親子が開場前から列をつくり、期待がそのまま空気の温度になりました。三つの劇がテンポよく交代し、最後には絵を描くワークショップも行われ、こどもたちの集中力と創造力が一段と開いていくのを感じました。お寺という非日常の空間が、こどもの心をやわらかくひろくのです。

秋の公演では、大きな部屋の三方向に舞台を設け、観客が向きを変えながら三つの芸術世界を体験しました。人形劇、音楽パネル、影絵—それぞれの表現がもつ息遣いが直に伝わり、特に影絵の場面では、こどもたちが静まりかえり、光の奥の物語に入り込んでいく時間がありました。場そのものが絵本のページをめくるように物語を進めてくれる、そんな贅沢な空間でした。

晩秋の会場では、観客どうしが自然と席を譲り合い、小さな連帯感が生まれていました。舞台では歌や参加型の演目が続き、こどもたちの反応に大人がほほえみで応じます。寺院という場が、世代をこえて人々をつないでいく

力を、あらためて感じた公演でした。年末の公演では、歴史ある本堂にあたたかい空気が満ち、こどもも大人もゆったりと過ごしました。「うんとこしょ、どっこいしょ」と声を合わせる場面では、年齢を問わず会場全体がひとつになり、物語の中に自分も参加しているという喜びが広がりました。帰



り際には「来年の開催はいつですか？」という声が多く寄せられ、この催しが地域の文化として確かな根を下ろしつつあることを感じました。

現代のこどもたちは、画面を通して多くの刺激を受けながらも、五感で世界に触れる体験が減っています。寺院で行われる人形劇は、畳の匂い、木の手触り、僧侶の声、光と影の揺らぎといった、場の質感。そのものが舞台となり、こどもの体験世界を大きく広げてくれます。同時に、大人にとっては、かつての自分もっていた柔らかな感受性を思い出す時間でもあります。

寺院は、もともと地域の心の拠り所であり、こどもにとっては学びと遊びが交差する場所でした。今、その役割が少しずつ取り戻されつつあります。「お寺de人形劇in池田二〇二五」をお寺でいっぱい遊んじゃおう♪」を通して、今年も多くのこどもたちの笑顔と真剣なまなざしに出会うことができそうです。来年度もまた、物語が生まれ、心に灯りがともる場を大切に育んでいきたいと思えます。

福祉活動および福祉事業への支援

関西広域

高野山レピーター局維持運営

ハム高野山クラブ会長 岩坪 英雄

令和七年春に高野山真言宗社会人権局社会課から宗外団体活動助成金のご支援頂いた事、ハム高野山クラブ会員一同を代表して感謝御礼申し上げます。

令和七年は阪神淡路大震災から三十年を迎え、全国各地で防災、減災の取り組みが見られます。ハム高野山クラブ (JAZZMN) も五十年の歴史の中、県や町の防災活動に積極的に協力し、高野山の夏の風物詩である蠟燭まつりにも開催当初より参加して参りました。近年は誰もが携帯電話を持ち大変便利な時代となりましたが、大規模災害発生初期段階での電源損失や通信ケーブル線の破損などの障害による携帯電話の不確実性も各地で報告されて



辨天岳に登山した有志一同

います。阪神淡路大震災の折も数日携帯電話の使用が難しい状態を経験しました。

一方では西宮市門戸厄神東光寺様に開設した高野山真言宗青年教師会の現地本部での活動には、高野山レピーターが大いに役立ったことは忘れることができません。

数年前よりハム高野山クラブの活動も低調になり、役員の引き継ぎもままならない状態に陥りました。幸いにも有志の方々の力添えを得て再出発したのですが、資金面で問題を抱える中、辨天岳レピーター (JP3YEG) 局の無



パンダマストにアンテナを設置する様子



線設備が故障し、経年劣化のため修理不能の窮地を迎えました。そんな中、高野山真言宗総本山金剛峯寺のご支援を得て無線設備の大改修を実現する事が出来ました。

無線設備の発注から半年以上経った令和七年九月初旬に有志数名が辨天岳に登山して無線局舎の清掃、新無線機の設定、十五メートル上空のパンダマストにアンテナの設置固定、各人が手分けして無事に完了しました。

当人は和歌山県、高野町の防災担当のご協力ご支援をいただきました。和歌山県防災無線の工事の為に設置していたモノレールの使用許可を頂き、重たい機器を辨天岳まで運ぶことが出来ました。高野町からも資金協力を頂き、引き続き関西広域レピーターは和歌山市内、大阪府、兵庫県加古川市や四国の一部からでも使用可能との情報を得ております。

無線設備の改修完成で防災、減災につながり、一人でも多くの生命を救うことが出来ればと会員一同喜んでるところです。この事がお大師さま、高野山奥の院から世界中の人々の幸せをお祈りされてる御心にも通じるのではと感謝しているところです。

その他の活動助成団体

- 宗内における福祉講習会開催に対する助成
高野山真言宗鳥取宗務支所主催・福祉講習会
高野山真言宗第七地域伝道団主催・福祉講習会
大阪寺族婦人会主催・福祉講習会
- 障がい者福祉団体への活動助成
盲導犬育成事業
社会福祉法人 日本ライトハウス盲導犬訓練所
点字図書・録音図書の制作事業
社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター
- ひきこもり対策活動への助成
NPO法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会
- 難病者援助団体への活動助成
公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を
- 各種団体への活動助成
公益財団法人 日本ユニセフ協会
心の相談員ネットワーク
高野山「めざめ」の森づくり実行委員会
被災地 NGO 協働センター

十一月十五日（土）、和歌山県人権啓発センターが主催する「ふれあい人権フェスタ二〇二五」が和歌山県田辺市のガーデンホテルハナヨ ハナヨアリーナで開催されました。今年も高



人権フェスタ会場 - 副島 淳さん講演会の様子

ふれあい人権フェスタ

◆ガーデンホテルハナヨ ハナヨアリーナにブースを出展

野山真言宗社会人権局として参加し、ブースを出展しました。

社会人権局が作成した人権啓発資料や御宝号念誦運動のリーフレット、令和十六年開催の宗祖弘法大師御入定千二百年御遠忌大法会のお知らせの配布や、卓上カレンダーの授与を行いました。今年の高野山体験コーナーでは、大伽藍から持参した三鈷の松の松葉を授与し、三鈷の松の由縁を聞いて頂きました。

他、各種団体の様々なブースでの



三鈷杵に触れる体験コーナー

体験型模擬店やアンケートにいろいろな人が対面し会話を楽しむこともこのフェスタの大切な趣旨であると思いましたが、このフェスタに参加した団体は番号が書いてある抽選券をもっていて、フェスタの最終にその抽選大会が行われました。福祉作業所や施設で作成された商品が景品となっていました。

高野山真言宗の番号は偶然当選の内の一組となり、福祉事業団製作のお菓子詰め合わせを頂きました。



クイズを楽しむ子どもたち

平和祈念展 in 和歌山

◆戦後八十年、抑留者「帰還促進運動」と高野山

和歌山県民文化会館にて開催された

「平和祈念展 in 和歌山」(十月三十一日～十一月九日)へ訪れました。今年(戦後八十年)という節目の年であり、会場には戦争での体験談や資料など、多くの展示物が並び、静かな緊張と平和への祈りの空気に満ちていました。その中でも、ひととき心を揺さぶられたのが「帰還促進運動」に関する展示で

した。



戦後、多くの日本兵が満州やシベリアに抑留され、帰還の見通しが立たない中であつても、「一人でも多く日本へ、家族のもとへ」という切実な願いが全国に広がりました。昭和二十二年(一九四七年)には、高野山壇上伽藍において在外将兵帰還促進連盟の第五回家族大会が開催され、抑留者の早期帰還を願う護摩が修法されるなど、山を挙げての一大行事が執り行われました。聖地である奥之院の参道には、帰還を待ち望む家族の方々が故郷から持参した小石が集められ、「必救一念石」が建立されました。その一つひとつに込められた祈りと願いの重さを思うと、胸が締めつけられる思いがいたします。今回の展示を通して、戦後の混乱の中で人々が寄せた祈りと願いが、いかに大きな力を持っていたかを改めて感



在外将兵帰還促進連盟 第五回家族大会の様子
出典：平和祈念展示資料館 (公式ホームページ)
<https://www.heiwakinen.go.jp/>

じました。そして、その祈りを受け継ぎ、平和への思いを未来へつないでいくことの大切さを深く心に刻みました。和歌山での展示は終了しましたが、東京・新宿住友ビルの平和祈念展示資料館で公開されています。戦争を知らない世代が増える中、平和の尊さを知る貴重な機会となると思いますので、ぜひ一度足をお運びいただきたく存じます。

高野山心の学び講座

◆対面・オンデマンド併用で広がる学びの場



第1回対面講座の様子

令和七年度 高野山心の学び講座「心の拠り所を求めて」は、対面講座とオンデマンド配信を併用したハイブリッド形式にて開催され、本年度は五十五名の方にご受講いただきました。

本講座は、社会環境の急激な変化や

価値観の多様化が進む現代において、仏教・心理学・福祉といった多角的な視点から、人が生きていく上での「心の拠り所」を見つめ直すことを目的として開講しております。

対面講座は第一回から第四回まで実施され、高野山大学の教員をはじめとする講師陣による講義や実修を通して



第2回対面講座（阿字観実修）

て、参加者が同じ場を共有しながら学びを深める機会となりました。

また、対面講座にて収録した内容をお住まいの方や当日参加が難しい方も、時間や場所にとらわれず継続して学んでいただける環境を整えました。

本講座を通じて、現代社会における心のあり方や支えについて、改めて考える学びの場を提供することができました。今後も高野山真言宗社会課では、多様な立場の方々へ寄り添いながら、心の学びを深める機会を継続して提供してまいります。



2 ファミリーコンステレーションの特徴

- ①視覚→自分→子供の命の役割を身体的に真の心
 - ・系統の中での位置を実感することで、個人を超えた「大きな命の役割」に気づく。
- ②存在の無条件性を確認する
 - ・自分がどこから来て、誰とつながっているのかを感じることで、自己の経緯や存在の安心感を得る
- ③世代を超えた命のつながりを実感する
 - ・個人の悩みや葛藤が、自分だけの問題ではなく、世代を超えて受け継がれてきたものと理解することで、新しい視点と癒しが生まれる。
- ④アトモファミリーコンステレーションの前提
 - ・前提：家族は世代を超えた「力の場（フィールド）」を持ち、そこには無意識的な絆や忠誠心が作用している。
 - ・方針：参加者から家族等の代理人を選び、会場内で配置（家系図や空間的な配置）を通じて、隠れた力学（つながり、排除された人など）を可視化する。
 - ・目的：家族システムにおける秩序の回復や流れの調整によって、本人の苦しみを軽減する。

ウイツシユバケーション

◆難病の子どもたちとそこにご家族に、祈りと学びの三日間



金剛峯寺前にて二家族で記念撮影

公益財団法人「難病の子どもとその家族に夢を」(代表・大住力氏)主催によるウイツシユ・バケーションが、今年度も十一月十四日(金)から十六日(日)までの二泊三日の日程で開催され、高野山にて受け入れを行いました



腕輪念珠作りの様子

た。少し肌寒さを感じる季節ではありましたが、本年度は二家族(計九名)の皆さまをお迎えし、静寂と祈りに包まれた高野山の地で、日常を離れた心安らぐ時間をお過ごしいただきました。滞在中は、参加される方々の体調や歩行状況にも配慮しながら、無理のない行程でご案内を行いました。滞在初日から二日目にかけては、金剛峯寺ならびに壇上伽藍の根本大塔・金堂を参拝し、高野山の歴史や信仰の世界に触れていただきました。ま



願いを込めながら、大念珠繰りをするご家族の姿

た、大師教会では授戒を受けた後、腕輪念珠作りを体験し、完成した念珠にそれぞれの願いを込めて大念珠繰りを行いました。祈りの所作を通して、静かに自らの心と向き合う時間となりました。霊宝館では、大森館長のご案内のもと館内を巡り、密教の教えや貴重な寺宝、仏さまのお姿について、分かりやすく、時に温かみのあるお話を交えな

がらご説明いただきました。厳かな空間の中で、参加されたご家族は静かに展示と向き合い、それぞれのペースで理解を深めておられました。

最終日には奥之院を参拝し、生身供を見学した後、御廟をお参りして旅を締めくくりました。長い参道を進みながら手を合わせるひときは、高野山ならではの空気と祈りの深さを感じて



大森霊宝館長によるご案内の様子

高野山では今後も、祈りとやすらぎの場としての役割を大切にしながら、多様な背景をもつ方々を温かく迎え入れる取り組みを続けてまいります。



奥之院にて記念撮影

いただく大切な時間となりました。本事業を通じて、難病を患う子どもたちとそこご家族が、家族そろって同じ体験を共有し、祈りの場で心を落ち着ける時間を持つていただけたことは、受け入れを行った私たちにとって大きな意義のあるものでした。

こころの便り事業

高野山真言宗がすすめる福祉活動の一つに「こころの便り事業」があります。この事業は昭和六十一年から継続して実施しており、本宗寺院の檀信徒を対象とした在宅要介護者及び独居高齢者の方々に対する支援です。

令和七年度は、フェイスタオル・御守り・卓上絵はがきカレンダー・園児の絵という四つの品を用意し、一四八ヶ寺を通じて三、八八一名の方々に高野山からの贈り物としてお届けいただきました。





ごあいさつ

社会課課長 素和 博

令和七年四月に社会課長を拝命いたしました素和博と申します。よろしくお願ひ申し上げます。今回の異動により奉職以来、初めての社会人権局配属となりました。なにぶん不勉強なため社会課の業務に関し少し考えてみます。

の漢語「福祉」を近代的意味に転用したそうです。

また、歴史的にも福祉の原点は寺院にあると答えています。日本では、国家による福祉制度が成立するより前、古くは六世紀の仏教伝来初期より寺院が福祉活動を行っていて、医療、救貧、孤

社会課の業務は社会福祉と社会事業、災害対応、社会事象に関する事項と宗規により定められております。誰もが耳にしたであろう昨今の社会事象と言えばAIですね。このふれあいは社会福祉に関する新聞でございますので、社会事象の象徴たるAIに「福祉の語源」について尋ねてみました。AIの解説によ

ると、福祉は日本の伝統的な漢語で語源は中国古典にあり、福は神からの加護+祉は神がもたらす安寧=幸福・安寧が満ちている状態という意味の熟語として古くから存在しています。そして江戸末期から明治の近代に welfare(ウェルフェア=福祉)を訳するために既存

の漢語「福祉」を近代的意味に転用したそうです。

また、歴史的にも福祉の原点は寺院にあると答えています。日本では、国家による福祉制度が成立するより前、古くは六世紀の仏教伝来初期より寺院が福祉活動を行っていて、医療、救貧、孤児・捨て子の保護、介護・看取りなど、病院・福祉施設・保育施設の役割を果たしていました。その他にも橋や池や道などの公共事業を行っていました。これは仏教の思想からくるもので、本宗でも濟世利人と表されています。本宗の規則にも濟世利人の聖業に精進することが目的であると記載され、社会課の活動資金となる社会福祉基金の規程には、宗祖の濟世利人の御請願に則り、社会福祉活動に寄与することが目的であると明記されています。

このように本宗ではこの濟世利人を社会福祉実践の核心理念として、本誌

面でご紹介いたしました福祉活動や支援を行っております。社会福祉活動の原資となる社会福祉基金の大部分は、御宝号念誦運動寄金で成り立っています。本年度も期首以来、多額のご寄進を賜りましたこと誠にありがたく、厚く御

礼申し上げます。御宝号念誦運動は宗祖弘法大師御入定千五百年御遠忌大法会を迎えるにあたり始まった運動です。古くはその五十年前の千百年御遠忌大法会の際にも御宝号念誦を行う運動が行われていました。令和十六年には宗祖弘法大師御入定千二百年御遠忌大法会を迎えますので、皆様におかれましては今一度、御宝号念誦運動を実践いただきますことをお願い申し上げます。その際は同時に「精進の日」の実践もいただければありがたく存じます。

少し業務に関して考えてみました。経済的な事象、政治的な事象、文化的な事象など様々な要因の社会事象がございます。そういった社会事象に適切した社会福祉活動に繋がるよう業務に邁進してまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

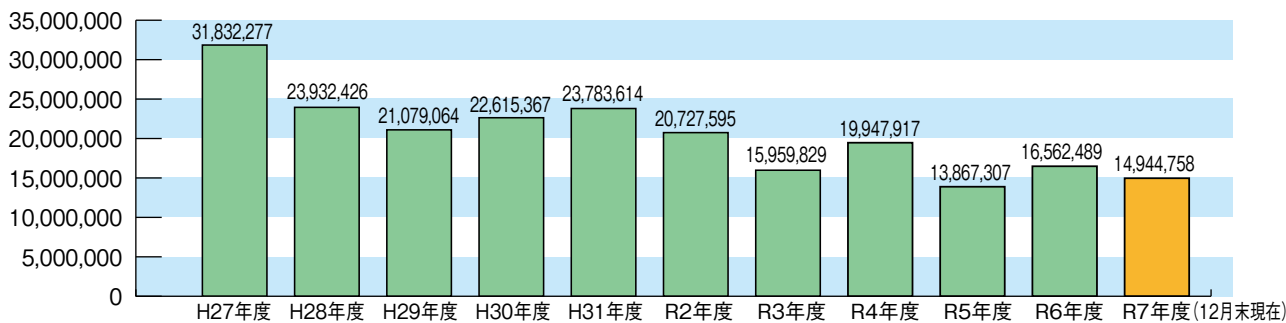
御宝号念誦運動とは、心静かに手を合わせ、お大師さまのお徳を表す御宝号『南無大師遍照金剛』をお唱えし、お大師さまと共に、平和な社会の実現に心を向ける信仰運動です。

お大師さまは、「濟世利人（世を濟い人々に利益をもたらす）」を誓いになり、高野山奥之院で永遠に祈り続けてくださっています。私たちもお大師さまと共に、一心に御宝号をお唱えし、全ての人々が幸せな生活を送れるよう祈念しましょう。



の御宝号念誦運動
のお願い

御宝号念誦運動寄金推移表



福祉基金事業表

皆さまから寄せられた御宝号念誦運動寄金は、高野山真言宗社会福祉基金として様々な福祉活動に役立てられています。

御宝号念誦運動寄金

高野山真言宗社会福祉基金

社会福祉事業

宗団社会福祉事業の推進

こころの便り事業（高齢檀信徒支援）

人材育成

高野山心の学び講座の開催
密教福祉研修会の開催
心の相談員ネットワークとの連携

海外援助

ユニセフ協会 など

宗内外における社会福祉活動への援助

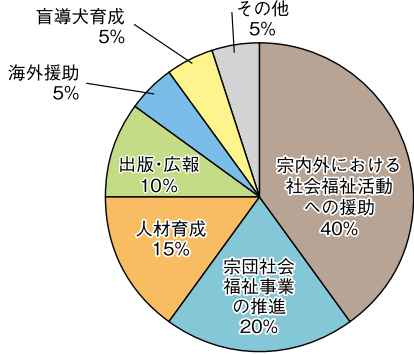
寺院および関係機関 ならびに宗外団体への活動助成
盲導犬育成事業 食糧等支援事業
障がい者への支援 ひきこもり対策事業 難病者支援

出版・広報

ふれあい発行 御宝号念誦運動の啓発
災害復興支援

その他

社会福祉基金の使われ方



ご浄財は、お近くの高野山真言宗の寺院にお持ちいただくか、直接御宝号念誦運動本部へご送金願います。

- ゆうちょ銀行
振替口座 00940-2-9941
高野山真言宗御宝号念誦運動本部
- 他の金融機関からの振込は
銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店番：099 預金種目：当座
店名：〇九九店 口座番号：0009941

〒648-0294 和歌山県伊都郡高野町高野山132 高野山真言宗 社会人権局 社会課
 電話 /0736-56-2013 FAX/0736-56-2226 E-mail/shakaika@koyasan.or.jp
 金剛峯寺ホームページ /https://www.koyasan.or.jp 印刷/株式会社ウイング